

# デーヴォ ガイド



**2025.9.15-21**

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

## L T G ガイド

- ①お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。(2~3つ)
- ②1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③礼拝メッセージの分かち合いをします。  
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディボーションの分かち合い(なるべく短く)
- ④預言の祈り(主の御心を宣言して祈り)をします。

## セル ガイド

- ①祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ②互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ディボーションの分かち合いをします。
- ④セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

## 家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族でいいのです。

- ①この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと?
- ②この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか?(または誉めたいですか?)1つだけ。
- ③聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか?
- ④互いの必要のために祈りましょう。

## 礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは?(信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど)

②どんな思いになりましたか?(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか?(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか?)

④この世にあって何を実践しますか?

## ➤ 15日 月曜

ローマ



6:8 私たちがキリストとともに死んだのなら、キリストとともに生きることもなる、と私たちは信じています。

6:9 私たちは知っています。キリストは死者の中からよみがえって、もはや死ぬことはありません。死はもはやキリストを支配しないのです。

6:10 なぜなら、キリストが死なれたのは、ただ一度罪に対して死なれたのであり、キリストが生きておられるのは、神に対して生きておられるのだからです。

6:11 同じように、あなたがたもキリスト・イエスにあって、自分は罪に対して死んだ者であり、神に対して生きている者だと、認めなさい。

6:12 ですから、あなたがたの死ぬべきからだを罪に支配させて、からだの欲望に従ってはいけません。

6:13 また、あなたがたの手足を不義の道具として罪に献げてはいけません。むしろ、死者の中から生かされた者としてあなたがた自身を神に献げ、また、あなたがたの手足を義の道具として神に献げなさい。

6:14 罪があなたがたを支配することはないからです。あなたがたは律法の下にはなく、恵みの下にあるのです。

救われた者が罪を克服できるその原理が明記されています。それは苦しい努力で頑張るのではありません。自分と罪との関係を知って、その真理に沿って考えて行動するのです。それは聖霊の助けによって可能となります。

どういうことかと言うと、救われた者は「罪に対して死んだ者」であるということです。ですから罪の誘惑に従う必要もないですし、それは無視して良い

のです。罪を犯してまでも自分を守る必要もありませんし、それでストレスを発散する必要もありません。主との生きた交わりがあれば、聖霊の力によって罪に影響されないようになります。

「罪に対しては死んだ者であり、神に対して生きた者」ですから、そのようにあ歩むことが、むしろ喜びなのです。ですから、私たちを「義の道具として神に献げる」ことが可能ですし、やってみるとその方がはるかに楽であることに気付くでしょう。主の御心を行うのですから、葛藤がなく、むしろ力が与えられるのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



## ➤ 16日 火曜

ローマ



6:15 では、どうなのでしょう。私たちは律法の下にはなく、恵みの下にあるのだから、罪を犯そう、となるのでしょうか。決してそんなことはありません。

6:16 あなたがたは知らないのですか。あなたがたが自分自身を奴隷として献げて服従すれば、その服従する相手の奴隷となるのです。つまり、罪の奴隷となって死に至り、あるいは従順の奴隷となって義に至ります。

6:17 神に感謝します。あなたがたは、かつては罪の奴隷でしたが、伝えられた教えの規範に心から服従し、

6:18 罪から解放されて、義の奴隷となりました。

6:19 あなたがたの肉の弱さのために、私は人間的な言い方をしています。以前あなたがたは、自分の手足を汚れと不法の奴隷として献げて、不法に進みました。同じように、今はその手足を義の奴隷として献げて、聖潔に進みなさい。

6:20 あなたがたは、罪の奴隷であったとき、義については自由にふるまっていました。

6:21 ではそのころ、あなたがたはどんな実を得ましたか。今では恥ずかしく思っているものです。それらの行き着くところは死です。

6:22 しかし今は、罪から解放されて神の奴隷となり、聖潔に至る実を得ています。その行き着くところは永遠のいのちです。

6:23 罪の報酬は死です。しかし神の賜物は、私たちの主キリスト・イエスにある永遠のいのちです。

罪ある者が恵みを与えられるのだとしたら、罪は恵みの元だから「私たちは罪の中にとどまるべき」だ

などと、とんでもないことを言う人が現れることをパウロは警戒しています。「決してそんなことはありません。」と言っています。

おそらくそのような迷いごとを言う人は、自分が神様から離れて、勝手にやりたいことの言い訳を探しているのでしょうか。私たちは「いのちにあつて新しい歩みをする」べきです。

救われて神の子となったクリスチャンは、安心して、「恵みの下にあるのだから罪を犯そう」または、罪を犯しても平気だと考える可能性がある、パウロは考えました。そこまでいなくても、恵によって赦されるだろうと、主に従わないでも平気な人がいるかも知れません。

パウロは、救われた者は罪から解放されていると言います。もう罪は支配しないのです。ですから安心して神のみこころを行って良いのです。良いことを行うことで、ストレスになることはありません。別の自分になることはありません。後悔することはありません。

安心して主のみこころを行いましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあつて何を実践しますか？



## ➤ 17日 水曜

ローマ



7:1 それとも、兄弟たち、あなたがたは知らないのですか——私は律法を知っている人たちに話しています——律法が人を支配するのは、その人が生きている期間だけです。

7:2 結婚している女は、夫が生きている間は、律法によって夫に結ばれています。しかし、夫が死んだら、自分を夫に結びつけていた律法から解かれます。

7:3 したがって、夫が生きている間に他の男のものとなれば、姦淫の女と呼ばれますが、夫が死んだら律法から自由になるので、他の男のものとなっても姦淫の女とはなりません。

7:4 ですから、私の兄弟たちよ。あなたがたもキリストのからだを通して、律法に対して死んでいるのです。それは、あなたがたがほかの方、すなわち死者の中からよみがえった方のもとなり、こうして私たちが神のために実を結ぶようになるためです。

7:5 私たちが肉にあったときは、律法によって目覚めた罪の欲情が私たちのからだの中に働いて、死のために実を結びました。

7:6 しかし今は、私たちは自分を縛っていた律法に死んだので、律法から解かれました。その結果、古い文字にはよらず、新しい御霊によって仕えています。

救われたということは、古い自分は死んだということです。イエス様の十字架が自分の身代わりであったということは、自分が死んだということなのです。それほど十字架は力あるものです。また信仰とはそのように、力あるものなのです。

死んだというのは律法によって死刑になったということです。イエス様はまさにその死刑を味わってくださいましたのです。

そして死んだということは、すでにさばかれる必

要はなく、また罪に対しても何の反応もないということなのです。私たちは罪を犯したくなる思いがあっても、それは一時的なことであり、やがて消えてゆくものですから、そのような思いに付き合っている必要はありません。もしも罪を犯し続けているなら、心が苦しくなるでしょう。

ですから、新しい御霊に仕えていることを思い、自分の新しい人が喜ぶことを選び取りましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたの中の部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



7:7 それでは、どのように言うべきでしょうか。律法は罪なのでしょう。決してそんなことはありません。むしろ、律法によらなければ、私は罪を知ることはなかったでしょう。実際、律法が「隣人のものを欲してはならない」と言わなければ、私は欲望を知らなかったでしょう。

7:8 しかし、罪は戒めによって機会をとらえ、私のうちにあらゆる欲望を引き起こしました。律法がなければ、罪は死んだものです。

7:9 私はかつて律法なしに生きていましたが、戒めが来たとき、罪は生き、

7:10 私は死にました。それで、いのちに導くはずの戒めが、死に導くものであると分かりました。

7:11 罪は戒めによって機会をとらえ、私を欺き、戒めによって私を殺したのです。

7:12 ですから、律法は聖なるものです。また戒めも聖なるものであり、正しく、また良いものです。

7:13 それでは、この良いものが、私に死をもたらしたのでしょうか。決してそんなことはありません。むしろ、罪がそれをもたらしたのです。罪は、この良いもので私に死をもたらすことによって、罪として明らかにされました。罪は戒めによって、限りなく罪深いものとなりました。

7:14 私たちは、律法が霊的なものであることを知っています。しかし、私は肉のな者であり、売り渡されて罪の下にある者です。

7:15 私には、自分のしていることが分かりません。自分がしたいと願うことはせずに、むしろ自分が憎んでいることを行っているから

です。

7:16 自分のしたくないことを行っているなら、私は律法に同意し、それを良いものと認めていることとなります。

7:17 ですから、今それを行っているのは、もはや私ではなく、私のうちに住んでいる罪なのです。

7:18 私は、自分のうちに、すなわち、自分の肉のうちに善が住んでいないことを知っています。私には良いことをしたいという願いがいつもあるのに、実行できないからです。

7:19 私は、したいと願う善を行わないで、したくない悪を行っています。

7:20 私が自分でしたくないことをしているなら、それを行っているのは、もはや私ではなく、私のうちに住んでいる罪です。

7:21 そういわずに、善を行いたいと願っている、その私に悪が存在するという原理を、私は見出します。

7:22 私は、内なる人としては、神の律法を喜んでいますが、

7:23 私のからだには異なる律法があって、それが私の心の律法に対して戦いを挑み、私を、からだにある罪の律法のうちにとりこしていることが分かるのです。

7:24 私は本当にみじめな人間です。だれがこの死のからだから、私を救い出してくれるのでしょうか。

7:25 私たちの主イエス・キリストを通して、神に感謝します。こうして、この私は、心では神の律法に仕え、肉では罪の律法に仕えているのです。

律法は人を救う力はありません。人の罪を明かにする

だけです。また時には禁止によって、それをしたくなるという誘惑もあります。「律法が...言わなければ...私は欲望を知らなかったでしょう。」

パウロは「律法は罪」なのかと問いかます。結論は、問題は人間の内にある罪であるということです。人は時に罪を犯しておきながら、あの人が大ごとにしたとか、あれがなければ問題なく済んだの...などと他のせいになります。問題は自分の罪なのです。律法のように、自分の罪や弱さを表すものがあつたら、逃れなくて正面から受け止めましょう。それで神様の赦しと力を体験できます。

パウロは自分のことを正直に、そして謙遜に語っています。罪の力と、それに対する人間の無力さを理解させるためです。これは救われてからのパウロの霊的状态を表しています。パウロほどの人がどんな罪を犯しているか...それを詮索する必要はないでしょう。

人はどんなにきよめられても、神様のような聖なる完全に至ることはできないのです。むしろきよめられれば、それだけ小さな罪に気づきます。また主のみこころにもっと従いたいと思います。神と人をもっと愛したいと思うでしょう。もっともっとお役に立ちたいと思うでしょう。パウロはきつとそのような思いで、自分を見たときに「みじめな人間」と感じたのでしょうか。

ここでパウロは、レベルの高い信仰に到達したい...と思っているのではありません。彼は自分の喜びに関心があるのではなく、神様のみこころに関心があるのです。ですから、人と比べるのではなく、自分の「私のうちに住む罪」と言っているのです。彼は誤解を受けたいよりも、神様のきよめをもっと実現させたいという願いが優っているのです。このように自分の罪を認める人は、聖なる人です。そのような価値観を持ちましょう。

①神のみこころは？ ②どんな思いになりましたか？ ③生き方にどう適用しますか？ ④この世にあって何を実践しますか？

## 19日 金曜

ローマ



8:1 こういうわけで、今や、キリスト・イエスにある者が罪に定められることは決してありません。

8:2 なぜなら、キリスト・イエスにあるいのちの御霊の律法が、罪と死の律法からあなたを解放したからです。

8:3 肉によって弱くなったため、律法にできなくなったことを、神はしてくださいました。神はご自分の御子を、罪深い肉と同じような形で、罪のきよめのために遣わし、肉において罪を処罰されたのです。

8:4 それは、肉に従わず御霊に従って歩む私たちのうちに、律法の要求が満たされるためなのです。

8:5 肉に従う者は肉に属することを考えますが、御霊に従う者は御霊に属することを考えます。

8:6 肉の思いは死ですが、御霊の思いはいのちと平安です。

8:7 なぜなら、肉の思いは神に敵対するからです。それは神の律法に従いません。いや、従うことができないのです。

8:8 肉のうちにある者は神を喜ばせることができません。

律法は罪を明かにして、さばきを実現させるものですから、救われないうちは「死と罪の律法」の中にあります。一方イエス様の十字架によって「いのちの御霊の律法」が実現しました。それは旧約の律法とは違い、神の愛による恵です。

「律法にはできなくなったこと」とは、人を救うことです。神はイエス様によって救ってくださいました。肉を持ってこの世に来られ、律法のさばきを御自身が受けてくださったのです。「肉において罪

を処罰された」ということです。

私たちは、主イエスが自分の身代わりに十字架にかかってくださったということを知っています。ならばそれは自分が十字架にかかったということであり、自分は律法のさばきによって死んだということです。ですからイエス様の十字架を信じる者は、肉においてはすでに死んでいるのです。

ですから私たちは、すでに「御霊に従って歩む」者であり、「御霊に従う者」、「御霊に属する者」なのです。「神を喜ばせる」ことをモットーとして、神の喜びを楽しみましょう。

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）



## 20日 土曜

ローマ



8:9 しかし、もし神の御霊があなたがたのうちに住んでおられるなら、あなたがたは肉のうちにではなく、御霊のうちにいます。もし、キリストの御霊を持っていない人がいれば、その人はキリストのものではありません。

8:10 キリストがあなたがたのうちに住んでおられるなら、からだは罪のゆえに死んでいても、御霊が義のゆえにいのちとなっています。

8:11 イエスを死者の中からよみがえらせた方の御霊が、あなたがたのうちに住んでおられるなら、キリストを死者の中からよみがえらせた方は、あなたがたのうちに住んでおられるご自分の御霊によって、あなたがたの死ぬべきからだも生かしてください。

8:12 ですから、兄弟たちよ、私たちに義務があります。肉に従って生きなければならぬという、肉に対する義務ではありません。

8:13 もし肉に従って生きるなら、あなたがたは死ぬこととなります。しかし、もし御霊によってからだの行いを殺すなら、あなたがたは生きます。

8:14 神の御霊に導かれる人はみな、神の子どもです。

8:15 あなたがたは、人を再び恐怖に陥れる、奴隷の霊を受けたのではなく、子とする御霊を受けたのです。この御霊によって、私たちは「アバ、父」と呼びます。

8:16 御霊ご自身が、私たちの霊とともに、私たちが神の子どもであることを証してください。

8:17 子どもであるなら、相続人でもあります。私たちはキリストと、栄光をともに受けるた

めに苦難をともしているのですから、神の相続人であり、キリストとともに共同相続人なのです。

信仰は御霊によりますから、イエスを主と信じる人には御霊がおられます。ですから信じる私たちは、すでに「御霊の中にいる」のであり、「キリストのもの」であり、「霊が、義のゆえに生きて」おり、「死ぬべきからだをも生かして」いただくことができ、「神の子ども」であり、「『アバ、父。』と呼ぶことができ、「キリストとの共同相続人」です。

以上のことを自覚して、また常に意識しているかどうかはとても重要です。私たちの信仰の人生を変えます。正しい判断、希望に満ちた将来像、愛のある人間関係を持つことができるからです。

今日も聖霊様がいてくださることを覚えて、聖霊様をあがめて、聖霊様に従いましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？





8:18 今の時の苦難は、やがて私たちに啓示される栄光に比べれば、取るに足りないと思はれます。

8:19 被造物は切実な思いで、神の子どもたちが現れるのを待ち望んでいます。

8:20 被造物が虚無に服したのは、自分の意志からではなく、服従させた方によるものなので、彼らには望みがあるのです。

8:21 被造物自体も、滅びの束縛から解放され、神の子どもたちの栄光の自由にあずかります。

8:22 私たちは知っています。被造物のすべては、今に至るまで、ともにうめき、ともに産みの苦しみをしています。

8:23 それだけでなく、御霊の初穂をいただいている私たち自身も、子にさせていただくこと、すなわち、私たちのからだに贖われることを待ち望みながら、心の中でうめいています。

8:24 私たちは、この望みとともに救われたのです。目に見える望みは望みではありません。目で見ていないものを、だれが望むでしょうか。

8:25 私たちはまだ見ていないものを望んでいるのですから、忍耐して待ち望みます。

8:26 同じように御霊も、弱い私たちを助けてくださいます。私たちは、何をどう祈ったらよいか分からないのですが、御霊ご自身が、ことばにならないうめきをもって、とりなしてくださるのです。

8:27 人間の心を探る方は、御霊の思いが何であるかを知っておられます。なぜなら、御霊は神のみこころにしたがって、聖徒たちのためにとりなしてくださるからです。

8:28 神を愛する人たち、すなわち、神のご計画にしたがって召された人たちのためには、

すべてのことがともに働いて益となることを、私たちは知っています。

8:29 神は、あらかじめ知っている人たちを、御子のかたちと同じ姿にあらかじめ定められたのです。それは、多くの兄弟たちの中で御子が長子となるためです。

8:30 神は、あらかじめ定めた人たちをさらに召し、召した人たちをさらに義と認め、義と認めた人たちにはさらに栄光をお与えになりました。

被造物、すなわち全宇宙とそこにあるもの全てが、神様の救いにあずかることを、パウロは擬人的な表現で語っています。万物は、神が人類を愛して人のために創造されたのであって、人類の罪ゆえに呪いの中に入ってしまったのですから、人類が救われることで呪いから解放されるのです。

神様の救いがこのように大きなスケールであることを覚え、神様の偉大さを讃えましょう。またこの望みを持って、自分自身も「子にさせていただくこと、すなわち、私たちのからだの贖われることを待ち望んで」いきましよう。それゆえに、「見ていないもの」でも、それを「望んで」、「忍耐をもって熱心に待ち」ましよう。この世のこと、世の終わりのことも、そして誰かの救いも、待ち望みましよう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

